

鈴木 智頭

私は普段、お寺の法務を務めると共に、週末は結婚式の司会者をしています。披露宴の一か月前にお二人と一時間ほど進行の打ち合わせをし、あとは当日を迎えるのですが、披露宴の三時間ほどの時間が新郎新婦にとっては一生の宝物、記念日となります。お二人に楽しんで頂きたい。進行を間違えてはいけません。そんな様々な思いから、プレッシャーに押しつぶされそうな時もありますが、そんな時に思い出すのが、「ご縁」という言葉です。「ご縁」はお釈迦様が説いた大切な教えである「縁起」に由来する言葉で、人が人為的に作った関係ではなく、全ての物事が互いに関わりあって存在していること、あらゆる存在が遙か昔から関連しあいながら現在に至っていることを示しています。世界中で無数の結婚式が開かれる中で、私が出会った新郎新婦との出会いも、人間のはからいでは知り尽くせないご縁、奇跡でつながっているということを思えば、ほんの数時間だけの新郎新婦とも、まるで旧知の仲のように笑顔を浮かべ心から「おめでとう」と言えている気がします。仏教と結婚式、まったく繋がりが無いように思えますが、新郎新婦の気持ちを汲み取り、言葉にしていく司会という仕事では、「聞く」ということを何よりも大切にしています。

ご縁に感謝し、聞法を大事にする浄土真宗の教えに常日頃から耳を傾け、その心を持ちながら新郎新婦の披露宴に対する想いと真摯に向き合い、一生の記念日のお手伝いをこれからも続けていきたいと思っています。